

指導案・提案資料

① 指導案

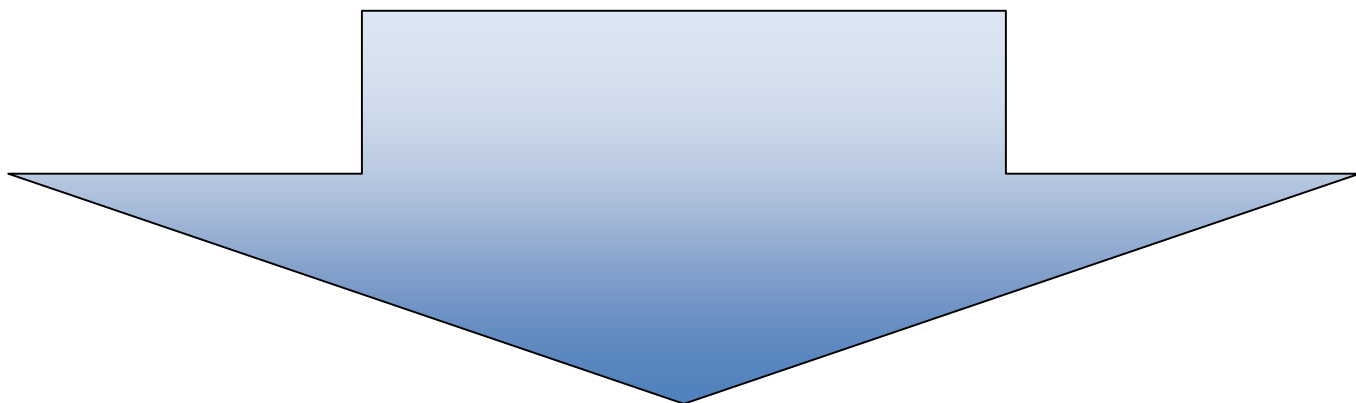
② 提案資料

※ 第100回教育研究発表会の紀要に掲載している指導案と、本実践に関わる提案資料です。

※ 提案資料は、指導案の補助的なものとして研究会当日に配布したものです。本提案資料は「教材の宝箱」版として、一部修正を加えています。

※ 本実践に関するご意見・ご質問につきましては、本校研究部までお願いします。

メールアドレス→sakashokenkyu@ed.kagawa-u.ac.jp



第1学年西組 図画工作科学習指導案

学習指導者 造田 朋子・支援員 清友 佑樹

1 題材 「お面をつけて大変身」

2 題材について

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

さまざまな面等の写真から感じたことを基に、自分のイメージに合うように、面や飾りの形をつくったり、色や材料を選んだりすることを繰り返しながら、表し方を吟味する力

自分が変身したいものの面を工夫してつくることに興味をもち、友達と見せ合い、それぞれの面の表し方のよさについて伝え合いながら、満足できる作品をつくり続けようとしている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本題材で子どもたちは、アフリカのおもしろい形の面やアジアのカラフルな仏像等を見て、「おもしろい形」「カラフルな色」「怖い感じ」等と感じたことから、変身したいもののイメージを決めていく。そして、面や飾りの形をつくったり色や材料を選んだり、いろいろな形や色、材料を考え直したりしながら、どのような表し方をすれば自分のイメージに合うのかを考えていくのである。例えば、煌びやかな東南アジアのゾウの神様を見て、「僕はライオンの神様に変身したいけど、ゾウの神様もかっこいい」という思いをもった子どもが、「ライオンの牙をゾウの牙の形にしよう」と形を決めてつくったり「牙には金や銀の色紙を貼ろう」と色や材料を選んだりする。さらに、「ゾウの牙は大きすぎるから、やっぱり少し小さくしよう」「金や銀の色紙の他に、赤や黄のビーズもつけたらきれいそうだな」「頭に小さい飾りを金や銀でつけたけれど、大きい冠にするともっとかっこいい神様になりそうだな」等と、いろいろな形や色、材料を考え、つくったり作りかえたりしながら表し方を吟味していくのである。

子どもたちは、作例におけるゾウの神様の大きな金色の冠や牙、色とりどりの小さな髪飾り等を見て変身したいものの面を工夫してつくることに興味をもつ。製作中はつくっている面をつけて鏡で見ながら、イメージと合うか確認したり、もっとよい表し方はないか考えたりしていく。また、その中で、友達的面はどのようなものか見たい、よいと思う表し方をまねしたいと思い、それぞれがつくっている面を見せ合い、よいと思ったことを伝え合う。そうすることで、自分の面のよさに気付いたり、まねしたい友達の表し方のよさを見つけたりしながら、自分の面を改めて見返し、新たな工夫を考えて作りかえようとするだろう。例えば、カラフルな鳥の王様になりたくて、頭にいろいろな色のモールをつけた友達を見て、「モールがカラフルで王様らしいね。僕もいろいろな色のモールを使いたいな」とまねしたい工夫を見つけたり、「モールを使ってもっと他の工夫はできないかな。違う色を2本まとめてねじってみよう」と新たな工夫を考えたりして、「イメージに合うお面ができてきたよ」と満足できる作品をつくり続けようとする子どもの育成を目指す。

(2) 自信度を高め、新たな問題を共有する場を位置づけた題材構成について

本学級の子どもたち35名中34名が、事前の質問紙調査で「図工が好き」と答えていて、教科への関心が高いことが分かる。図工の授業でよかったと思うことを聞くと、「友達に作品を褒められたこと」「難しいことでもできたこと」であった。一方、図工の授業で困ったことを聞くと、10名が「イメージを形にできない」、9名が「何色にするか迷う」「思うように切り貼りができない」と答えている。このことから、表したいイメージに合う形や色を思い描くことや、表したいことを実現するための技能について自信がない子どもが多いことが分かる。

そこで本題材では、イメージしたものを表すためには、どのような形をつくったり、色や材料を選んだりすればよいのかについて考え、つくって試す場を段階的に設定する。まず、面の形を製作する時間は形の視点を、次に、面に飾りをつける時間には色、材料の視点をと、段階的に視点を獲得させること

で理解しやすくする。そして、一つ視点を獲得する度に、その視点におけるさまざまな工夫について考えを広げ、それを基に自分のイメージに合う工夫を考えていくようにする。その際、製作途中で繰り返し友達と面を見せ合い、よさを伝え合う活動も行う。自分の工夫が認められ、できてよかったと感じる成功体験を積み重ね、自信度が高まるようにしたい。このような題材構成により、「イメージに合う、形や色の工夫をもっと考えたい」「他の材料でも工夫できないかやってみたい」といった思いが強化されると考える。このような思いを共有し、さまざまな工夫を試しながら製作できるようにすることで、満足できる作品をつくらうと、主体的に取り組む子どもが育つと考える。

(3) 題材計画と学習意欲への働きかけ (総時数 6時間)

次	主な子どもの意識および学習の流れ	学習意欲への働きかけ
第一次	<p>① どんなお面にしたいか詳しく考えよう</p> <p>日本や世界のさまざまな面の写真や作例を見て、面を工夫してつくことに興味をもつ。そして、自分が変身したいものの想像を膨らませ、具体的なイメージをもつ。</p>	<p>②～⑤ 関・自</p> <p>【あなたが選ぶのはどっち】</p> <p>面の形をつくるときは「丸と角」、「大小」、飾りの色を考えるときは「明暗」等、二つを対立させて比較することで、それぞれ、受ける感じが違うことに気付かせ、自分の面づくりに生かせるようにする。また、比較して気付いた表し方の工夫を学びの足跡として掲示するとともに、作品への生かし方を例示することで、学習の広がりをつまえられるようにする。</p>
第二次	<p>② イメージに合わせてお面の形をつくらう</p> <p>作例の丸い面と角ばった面の形を比較し、丸は優しい感じ、角は鋭い感じを主に受けると気付く。次に、同じ形で大きさが違う例を比較し、大きいと力強い感じ、小さいと繊細な感じを主に受けると気付く、「丸と角」「大きい小さい(大小)」という視点を共有する。そして、イメージに合う面の形をつくるために、さまざまな形を試していく。</p> <p>③ イメージに合うような飾りをつけよう</p> <p>④ 工夫をもっと考えて飾りをつけよう</p> <p style="text-align: right;">本時(4/6)</p>	<p>②～⑤ 自【ヒントコーナー】</p> <p>飾りの形や色をどうすればよいか迷っている子どもたちのために、ヒントコーナーで飾りのつくり方を知ったり、試して練習したりできるようにする。そうすることで見通しをもって製作できるようにする。</p>
第三次	<p>第3時では、明るい色と暗い色の飾りを比較し、明るい色は元気な感じ、暗い色は静かな感じを主に受けると気付く。次に、綿と木を比較し、軟らかい材料と硬い材料から受ける感じの違いに気付く。前時の「丸と角」、「大小」に加え、色の「明るい暗い(明暗)」、材料の「硬い軟らかい(硬軟)」の視点を共有することで、表したいもののイメージに合う工夫ができそうだと感じ、「形や色、材料の工夫をもっと考えたい」という思いをもつだろう。それらを表出させ、第4時の課題を設定する。</p> <p>第4時では、今まで学んだ四つの視点を基に、工夫を組み合わせる新しい工夫を考えたり、交流で見つけた友達の工夫をまねたりしながら製作していく。課題解決を通して、「イメージに合うように、面をもっとよくしたい」という思いをもつだろう。それらを表出させ、次の課題へとつなぐ。</p>	<p>----- 振り返り -----</p> <p>①～⑥ 【見る見るカード】</p> <p>その時間の自分の頑張りだけでなく、友達の面のよいと思った工夫も書き、友達と伝え合うことで、協働のよさを感じられるようにする。</p>
第三次	<p>⑤ イメージに合うか確かめながらお面を完成させよう</p> <p>面をつけて鏡で見たり、友達と見せ合ったりしながら、自分のイメージに合う面になっているかどうか確かめながら完成させていく。</p> <p>⑥ みんなで変身して、よいところを見つけ合おう</p> <p>学校内で、面のイメージに合うような場所を見つけ、ポーズをとりながら自分の変身した姿を紹介し合う。変身した姿を見せ合い、形や色、材料等の視点を基に工夫を見つけ、よさを認め合う。</p>	

3 本時の学習指導

(1) 目標

面の飾りの形をつくったり、色や材料を選んだりすることを繰り返しながら、自分が変身したいもののイメージに合うような面をつくることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識
1 前時までの製作を振り返り本時の学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">カラフルな鳥の王様に変身したいから、いろいろな色のモールを頭につけたよ。もっと形や色を工夫して羽をつくりたいな。</div> <div style="width: 45%;">かっこいいライオンの神様だから大きな牙をつけたら強そうになった。他の材料も使って、もっと工夫したいな。</div> </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">工夫をもっと考えて飾りをつけよう</div>	
<p>2 自分のイメージに合うように工夫して面をつくる。</p> <p>(1) 今まで学習してきた工夫の視点を確認する。</p> <p>関・自【あなたが選ぶのはどっち】</p> <p>(2) 考えた工夫を試したり、友達の工夫のよさを見つけたりしながら製作する。</p> <p style="text-align: center;">自【ヒントコーナー】</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%;">角の形より丸い形は優しい感じがしたね。</div> <div style="width: 22%;">大きい飾りは力強い感じがしたね。</div> <div style="width: 22%;">明るい色は、元気で楽しそうな感じになるよ。</div> <div style="width: 22%;">綿は軟らかいから、ふわふわした感じだね。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">鳥の王様の羽は、大きくして強くしたい。でも、丸くして優しい感じにもしたいな。</div> <div style="width: 45%;">白い綿に赤や黄、金や銀で小さい模様をたくさんつくって貼りつけると、ふわふわの冠になりそうだ。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">丸くて大きい羽の色は何色にしようかな。友達はどんな飾りにしているか見て考えよう。</div> <div style="width: 45%;">きれいな冠ができたから友達にも見てもらいたいな。友達と見せ合いたいな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">友達は木切れをたくさんつけて竜の角にしているね。かくかくして強そうだ。黄と青のモールを巻き付けているね。</div> <div style="width: 45%;">黄の羽が明るくていいかな。赤もつくって比べてみよう。明るくて元気な王様にしたいな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">自分の面を友達に見せて、工夫を紹介したいな。友達と見せ合ったら、まねしたい工夫もきっとたくさん見つかるよ。</div> </div>
3 自分の面の工夫を紹介したり、友達の工夫のよさを見つけて伝えたりする。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">ライオンの神様の頭の飾りがいいな。綿についている飾りが宝石みたい。</div> <div style="width: 30%;">鳥の王様はいろいろな色の羽をもっているんだね。丸くて大きい羽は孔雀みたいだね。</div> <div style="width: 30%;">竜の角は木だけじゃなく、きれいな色にしたくてモールの巻き付けたよ。</div> </div>
4 本時を振り返り、自分の頑張りや友達の工夫のよさを伝え合いながら、次のめあてをもつ。 関【見る見るカード】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 自分も友達もよい工夫がたくさんあったね。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">次は、綿に金や銀で小さい宝石の形を貼って、大きい羽につけて飾りにしたいな。</div> <div style="width: 45%;">前の面より、ライオンの神様は強くかっこよくなったよ。イメージに合う工夫をもっと考えたいな。</div> </div>

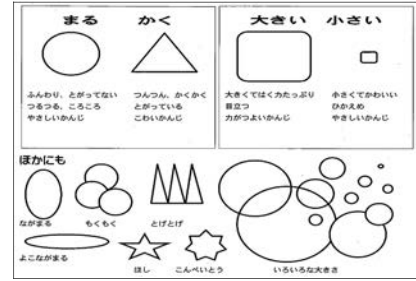
(3) 授業の詳細 (☒…支援員の主な動き)

前時までの子どもの意識 学習活動1

前時までに子どもたちは、形、色、材料の視点を基に工夫することを学んできている。そして、これらの視点を基に面の飾りをつくり、「形や色の工夫をもっと考えたい」「他の材料でももっと工夫できないかやってみたい」という思いが表出されている。そのような前時の活動を振り返りながら、本時の課題を確認する。

学習活動2

まず、前時までに学んできた工夫の視点について確認する。形の「丸と角」「大小」、色の「明暗」、材料の「硬軟」それぞれ二つを比較して受ける感じの違いや、例の他に思いついた工夫を加えて学びの広がり示した掲示物を見せながら振り返らせる。関・



自【あなたが選ぶのはどっち】そうすることで、子どもたちは、自分がつくりたい面のイメージに合わせた工夫を見つけていく。【あなたが選ぶのはどっち (形の例)】
ろう。また、それぞれの工夫を組み合わせる等、新しい工夫も考えていこう。

工夫の視点を確認したら、製作を始める。教室に、飾りのつくり方を知る場所、考えた工夫をつくって試す場所、いろいろな材料を選択できる場所を設定しておく。自【ヒントコーナー】そして、製作中は自由にそれらの場所へ行ってよいと共通理解しておく。そうすることで、自分が必要なタイミングで、イメージを表すための飾りのつくり方を知ったり、思いついた工夫を試したりできるようにする。また、面をつけて鏡で見る場所も設定することで、飾りがイメージに合うか確認し、見返しながらつくることもできるようにする。(☒色や材料の選択を迷っている子どもに、イメージと視点をつなぎながらアドバイスをしたり、技能の支援が必要な子どもに、飾りをつくる際の補助を行ったりする。また、製作が進んでいない子どもに、困っていることを尋ね、個別に対応する。)製作が進むにつれ、子どもたちは「自分の面の飾りを友達に見てもらいたい」「友達の工夫のよさを見つけてまねしたい」という思いをもつだろう。友達と見せ合いよさを伝える交流は、製作中はいつでもしてよいことを日頃から共通理解しておくことで、子どもたちどうしの自然な関わりを促す。友達と交流をしていくと、もっと多くの友達と見せ合いたいという思いをもつだろう。それらを表出させて共有する場を設定し、学習活動3へとつなぐ。

学習活動3

自分が変身したいもののイメージを伝えてから飾りの工夫を紹介したり、友達の飾りの工夫を見つけてよさを伝えたりする交流を行う。(☒積極的に友達に声をかけられない子どもに、ペアを見つめられるように支援したり、自分の思いを上手く伝えられない子どもの話を補足したりする。)子どもたちには、今まで学んだ視点を基に、自分が頑張った工夫や友達の面から見つけた、よいと思う工夫について伝え合うことが、交流での大切な点だと周知しておく。子どもたちは、友達に認められることで「よい工夫ができた」と自信がついたり「友達の工夫をまねしたい」と、自分の面の飾りに生かせそうな新しい工夫を見つれたりできるだろう。

学習活動4

前時の面の写真と見比べ、自分の面がどのように変わったかを見て、よくなったことや頑張ったことをワークシートに書く。さらに、友達の面を見て、よいと思った工夫も書く。振【見る見るカード】(☒自分の頑張りや友達のよさをなかなか書けない子どもに、支援員が感じたことを伝えてよさに気付かせる。)そして、書いたことを友達に伝えることで、互いに学び合うよさを実感できるようにする。さらに、次にしたい工夫もカードに書かせ、表出させることで共有し、次時の課題へつなぐ。

(4) 総括的評価

自分が変身したいもののイメージに合うように、何度も、面の飾りの形をつくったり、色や材料を選んだりしながら満足できる面をつくろうとしている。【方法：作品、観察、見る見るカード】

平成 30 年 1 月 26 日 (金)

第 100 回 香川大学教育学部附属坂出小学校 教育研究発表会 提案資料

第 1 学年西組 図画工作科

「お面をつけて大変身」



香川大学教育学部附属坂出小学校

造田 朋子

1 図工においての子どもたちの実態とそれに合わせた支援について

○ 1学期の図工の時間には、のびのびと自分の思いを表すことを楽しんで表現活動に取り組む子どもが多い反面、自分の描いた絵を教師や友達に見せたがらない、見ようとすると隠す、「上手に描けないから恥ずかしい。人に見せたくない。」と感じている子どもが少なくなかった。そのような子どもは、製作中に「これでいい?」「次は何を描いたらいい?」等と繰り返し教師に尋ねており、図工の時間は好きだけれど、自分の表現に自信がもてない様子が見られた。(要項 P65~)

※ これを受けて、「みんなの思いや感じるものが違うから、いろいろな表し方ができる。だから図工はおもしろい。自分も友達もみんな同じでは、つくっても見せ合ってもおもしろくない。」と感じられるような、題材の設定や題材の構成を工夫したり、教師の働きかけを工夫したりしてきた。

また、教師が子どもの表現を見た時、その子の発想のおもしろさや、こだわって製作したところ等を具体的に称賛し、どのような表現も否定しないことを心がけたことばかりを継続していった。徐々に、子どもたちは、「みんながそれぞれ違うのがいいんだ。本物みたいにしようと思わなくていいんだ。」「自分の作品をみんなに見せたいな。友達がどんなのをつくったのか見たいな。」と感じられるようになってきている。

○ 今は、自分の思いを表すことが好きなものの、自分のイメージを表すための方法を思いつかない、表現するために必要な技能面で自信がない子どもが多い。(要項 P153~)

※ これを受けて、本題材では、表したいことがイメージできても、それをどのように表せばよいのかが分からないという子どもの実態に合わせて、「形」「色」「材料」という視点をもたせることで、自分のイメージを表すための工夫を見つけられるようにと考えた。そこで、本来は、「形や色の感じ」「材料」といった視点は、中学年で指導するものであるが、できるだけ簡単なことだけに絞って、今回、取り上げることにした。視点をもたせる際には、教師から知識を押し付けるのではなく、子どもたちの活動の中での気づきや、今までの学びを振り返りながら、子どもから視点に関わる内容の表出を促すようにする。そして、子どもの発言を取り上げ、教師が価値づけることで、視点に気付いていくようにすることが重要である。

また、技能に自信がもてない子どものために、飾りのつくり方が見るだけで分かるような掲示や、練習できる場所を設けた。

★ こうして、表したいことを表すための知識や技能を習得した子どもたちは、学んだことをどう使って自分のイメージを表していくかを思考し、友達と交流する等、関わりの中で自分の考えを広げたり深めたりしながら、主体的に学びに向かうことができると考えている。(本時、子どもたちの様子から、それらの効果についてご指導ください。)また、このような実践を繰り返すことで、獲得した知識・技能が日常的にも生かされると考えている。

2 本題材の指導の実際

《第1次》（1時間）

どんなお面にしたいか詳しく考えよう

- ★ 日本や世界のさまざまな面の写真や教師の作例を見て、面を工夫してつくることに興味をもつ。
- ★ 自分が変身したいものの想像を膨らませ、具体的なイメージをもつ。

まずは、さまざまな国の面や神様の姿を描いた写真を子どもたちに見せる。アフリカの長細く、模様をついた面を見せたり、東南アジア等の色彩が鮮やかな面、インドの神様の絵、日本の祭りの竜や獅子等の写真を見せたりした。

→ 発想する手がかりとして、参考になる資料をたくさん準備する。子どもたちが想像を広げる際の手がかりは多い方がよいと考える。少ないと、似通った主題を選ぶことがあるため、想像の幅を広げられるようにしていく。教師がつかませたい「形」「色」等の視点がはっきりと分かるようなものが望ましい。

→ うさぎ、犬等、子どもたちが好きな、身近な動物をつくるのも悪いわけではないが、現実にいるうさぎをつかって終わりでは、想像を膨らませられていないと考える。また、実際のうさぎとは様子が違うような面ができた際に、その子どもは再現できなかったことを残念がり、意欲も自信も低下するのではないと思われる。そこで、自分のイメージに合わせて、「形」や「色」のさまざまな工夫を考えながら面づくりを楽しむことを目的として、自分が想像した生き物等を主題として表すこととした。そのために、このような写真を選択した。

【補助黒板】

竜がかっこいい。竜に変身したいな。

祭りの竜や獅子の写真

東南アジア等の神様や面の写真

アフリカの面の写真

金の冠がきらきらしているよ。

緑に赤って怖いな。

長くて細い顔の形だよ。模様があっておもしろいな。

【教師の作例も準備】

（作例製作について）

- ・子どもが「おもしろそう、やりたい」と思えるようなもの。
- ・本題材の場合、想像した生き物等を面にしていくので、本物の動物とは違う特徴のあるもの。
- ・「形」「色」「材料」等の視点をつかませたいので、それらが分かりやすく見えるようなもの。
- ・さまざまな紙の加工のしかたの例となるもの。



「強くてかっこいいぞうの神様」

- ・丸と角
- ・大小
- ・色の明暗
- ・材料
- ・手でちぎったりはさみで切ったりする
- ・角をつき出す（裏から竹ひごで固定）
- ・曲げる、丸める

詳しくイメージできたら、絵に表す。1年生の発達段階として、ことばでは表現しきれないことを絵で補うことができる。



イメージした絵ができたら、子どもどうし見せ合う全体交流を行う。

※ 絵を描いている最中に、資料の写真や作例、友達の絵を自由に見てもよいことにしておく。

★交流活動の工夫

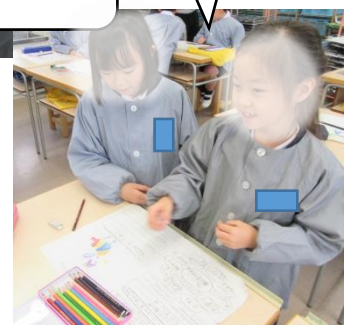
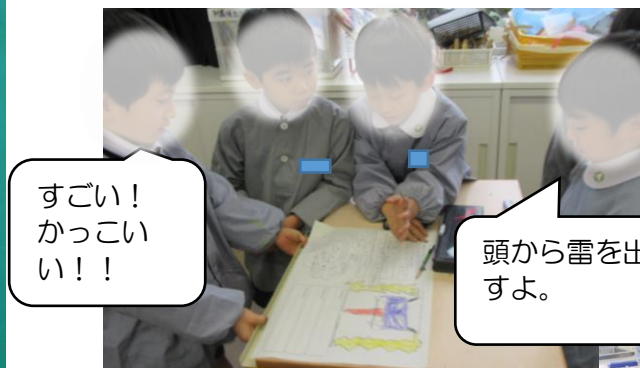
友達との関わりによって、自分のイメージを表すための、新しい工夫を見つけることができる。また、自分や友達のをさを認め合えるようになっていくと考える。そこで、製作の際は、

- ①必要に応じて、自分のタイミングで友達の作品を見に行き、自分の作品に生かせるようにする。
 - ②全体で見せ合う場を設定し、学級全体の子どもで工夫を見つけ合うようにする。
- という二つの交流を行う。①については学級できまりをつくって共通理解しておく。

〈子どものようす〉



つくるときのきまり
 ★ともだちのさく
 ひんを見にいっ
 てもいいよ。
 ★見せてもらった
 かんそうをつた
 えたらいいよ。
 ★ともだちがいや
 なきもちになる
 ことはしない、い
 わないようにし
 よう。

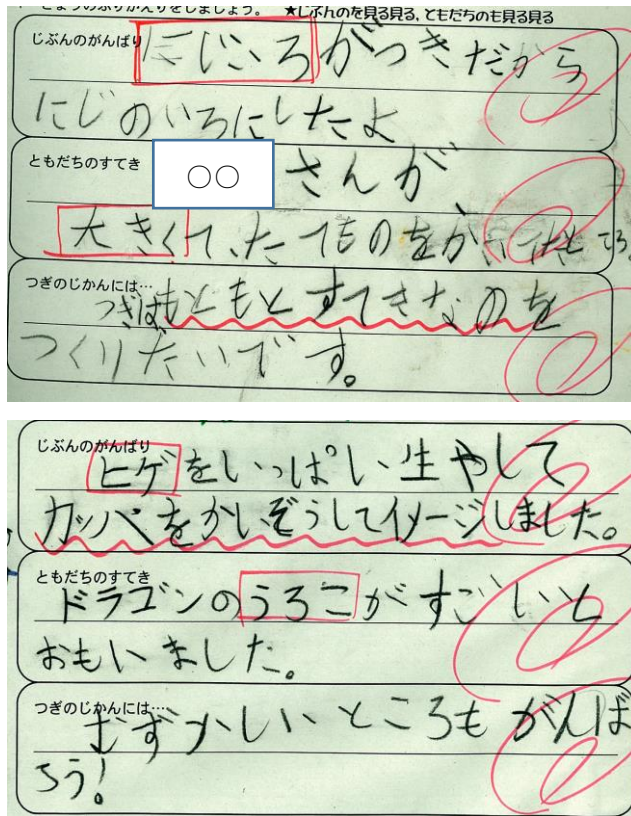


交流後、見る見るカード（この時間はワークシートと一緒にしている）を使って振り返る。

★【見る見るカード】振り返りの工夫

①自分が頑張ったこと
 ②友達の面のよいところ
 ③次の時間にやりたいこと

の3点を別々に書く欄をつくることで、子どもたちは自分の頑張りだけでなく、交流で見つけた友達の工夫を書く。そうすることで、新しい工夫を見つけたり、友達のよさを認めたりできる。また、今日の頑張りや次の時間にしたいことを伝え合うことで、「いいね」「頑張って」等のことばをやりとりしていく。それによって意欲を高められ、互いに学び合うよさを感じられるようにする。



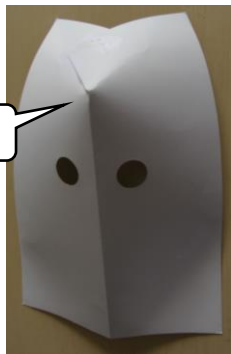
次にしたいことを表出させ、次時の課題設定につなぐ。

《第2次》（4時間）

1時間目

イメージに合わせてお面の形をつくらう

いよいよ面をつくっていく。子どもたちには、右のような、頭になる部分を丸くした厚紙を渡す。こうすることで、面がより立体的になり、頭の部分に、後で飾りをつけやすくなるようにした。



真ん中に切込みを入れて少し重ね、ホッチキスでとめる。

そこから自分のイメージに合わせた面の形を考えていく。自分の変身したいもののイメージに合うようにするには、面の形をどうするか、子どもたちがアイデアを少し出し始めた時に、白い紙を丸と三角に切っただけの面の作例を見せ、比較させながら考えていくようにした。

〈板書写真〉

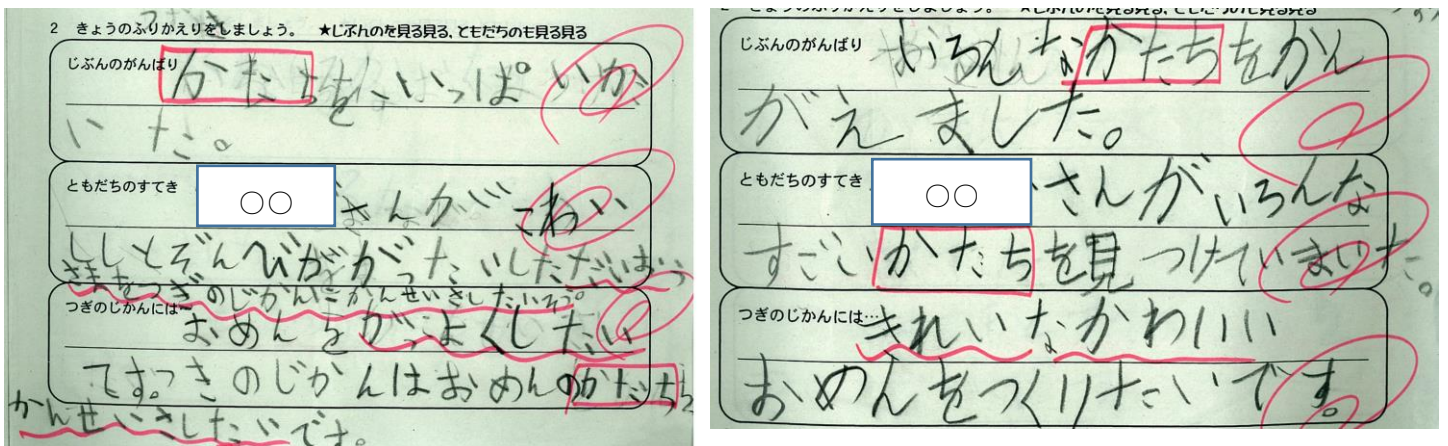
今までの学びから思いつくりいろいろな形を出し合う。

丸や角の面を見ながら、どんな感じがするかを出し合い、自分のイメージに合う形のヒントとする。この時、子どもから「向きや大きさが変わると感じが変わる」の発言があったので、価値づける。

他にどんな形があるか考え、丸と角だけでなく多様な形から、自分のイメージに合わせていくことに気付かせる。

獲得した視点から、自分のイメージに合う工夫を見つけ、製作していく。その後、振り返りを行う。

〈振り返り〉見る見るカード（この時間もワークシートと一緒にしている）



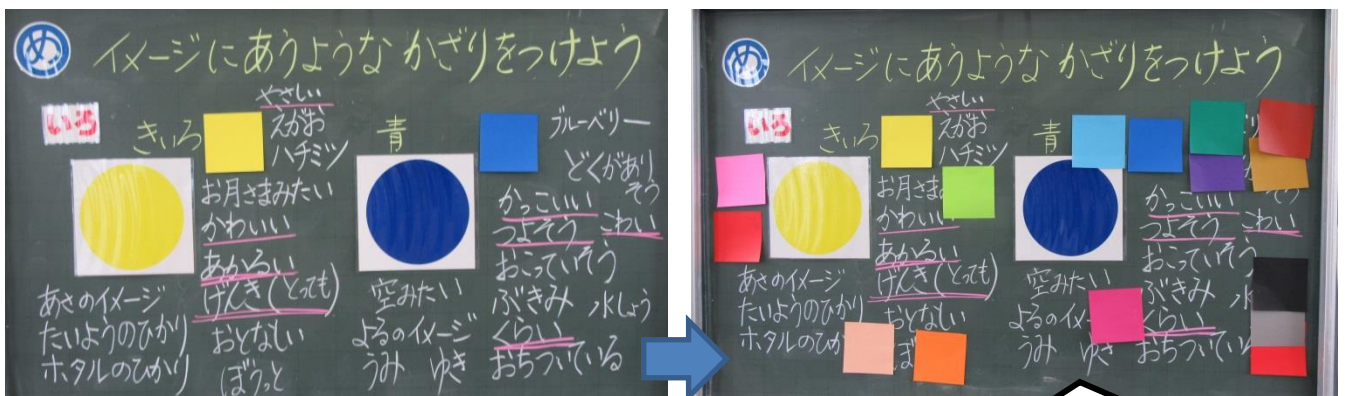
2時間目

イメージに合うような飾りをつけよう

面の形ができ、イメージに合うような色をつけていく。本題材では、絵の具やマジック等は使わず、色画用紙や色紙、両面に違う色がある造形紙を使う。イメージに合わせて選べるようにするため、色の視点を獲得していく。

自分のイメージに合う色とはどんなものなのか考えるために、黄色と青色を教師から提示した。「かっこいい色は、青の方。」「黄色は明るいし、かわいい。」等と発言が出た。「～みたい」という見立てもどんどん取り上げていく。そうする中で、色の感じの違い等についても感じるようになり、自分のイメージに合う色を選ぼうという意識が高まった。

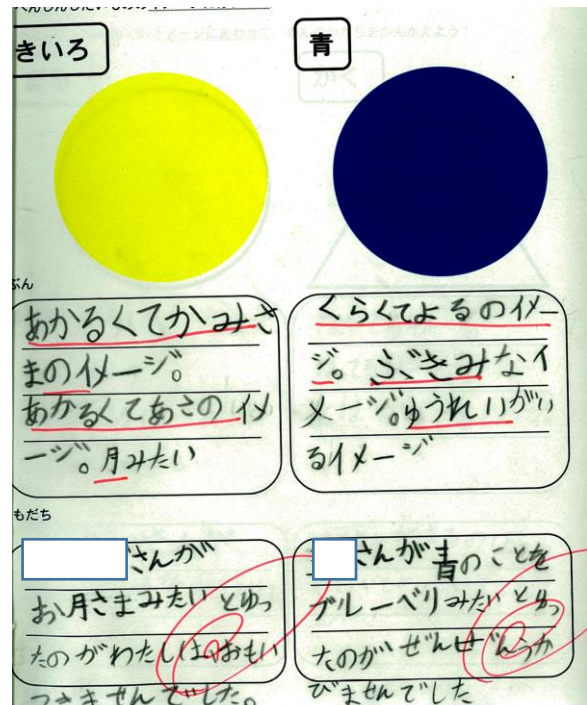
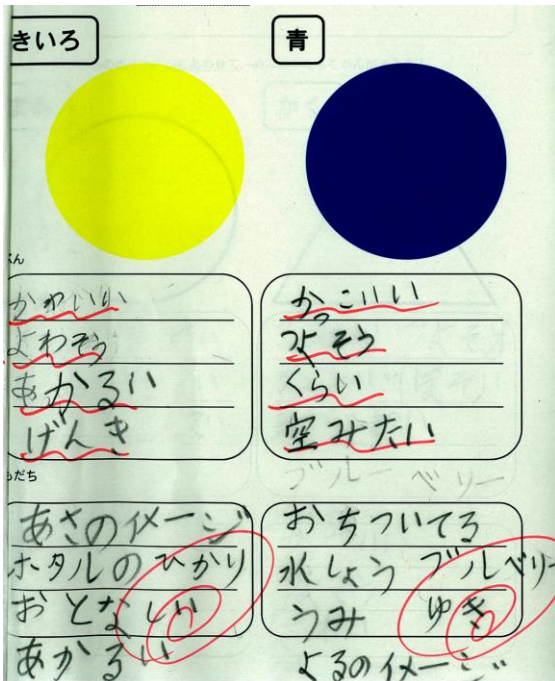
〈板書写真①〉



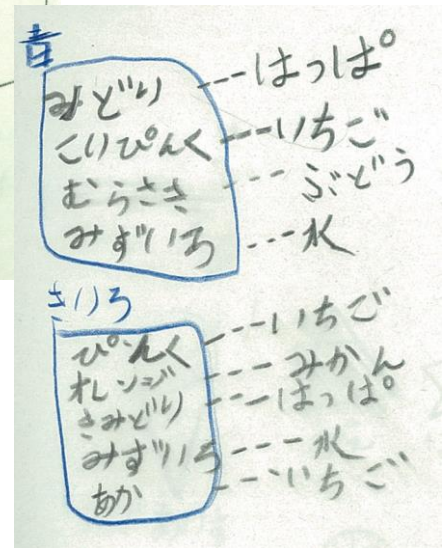
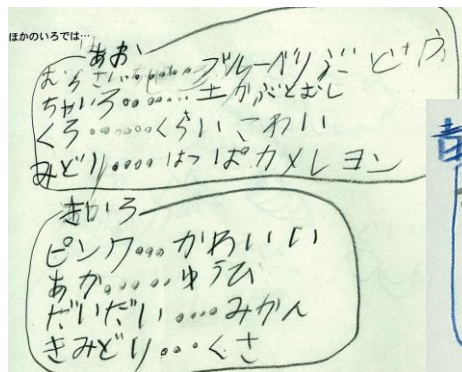
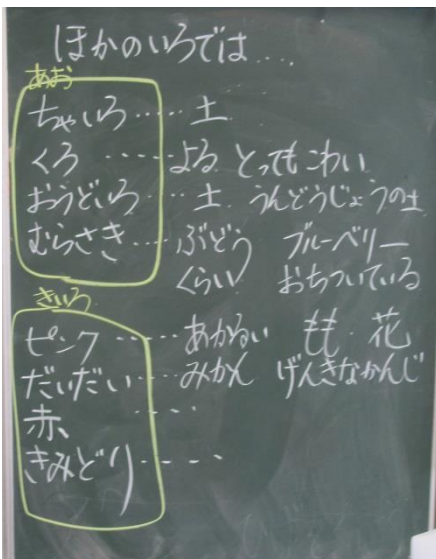
まず、黄色と青色でどのような感じがするかを考えていく。

色は黄と青しかないのではない、他の色の場合は、どちらの色の仲間に近いかを考えていく。
この時、材料として用意している色画用紙と同じ色紙を用意し、仲間分けしたり、受ける感じを発表したりしていく。
明確に分類できない色や、どちらにも当てはまると感じる色があっても認める。(感じ方の違いに気付ける。)

〈子どものワークシート〉



〈板書写真②〉

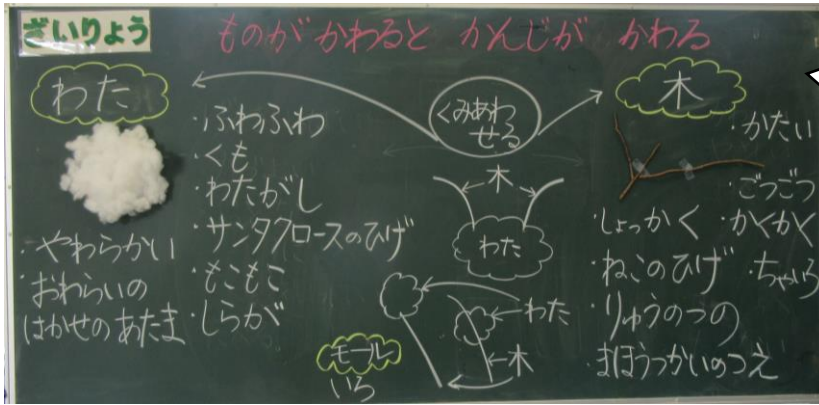


こうして、自分のイメージに合う色を決めて飾りをつけ始める。

ある程度飾りができてきたところで、もっと表したいイメージに近づくための、材料について考える。

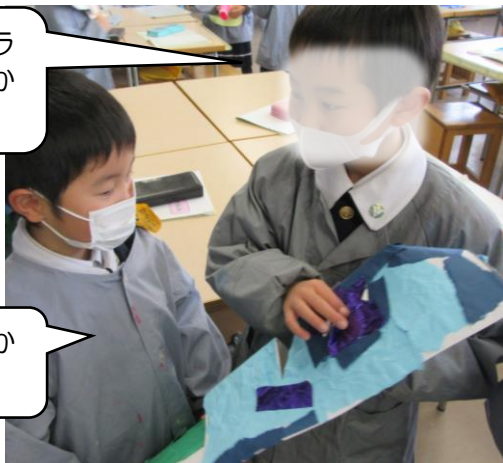
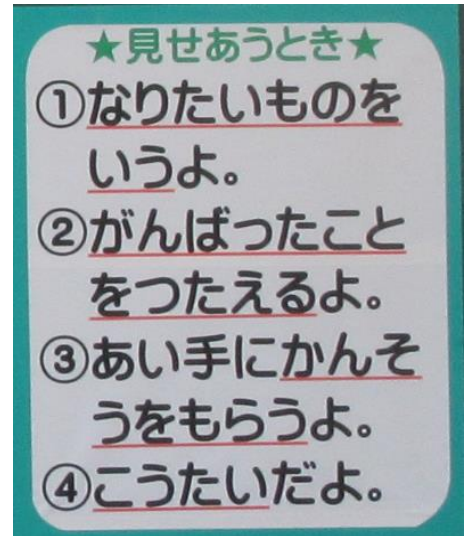


〈板書写真③〉



- 材料は、綿と木、モールにしぼる。
- 綿や木の感じを出す。
- 材料を組み合わせることを押さえる。
- 他に、モールを紹介する。

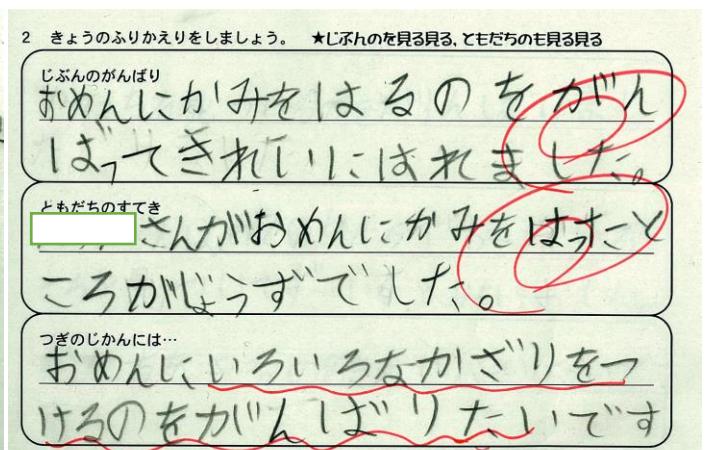
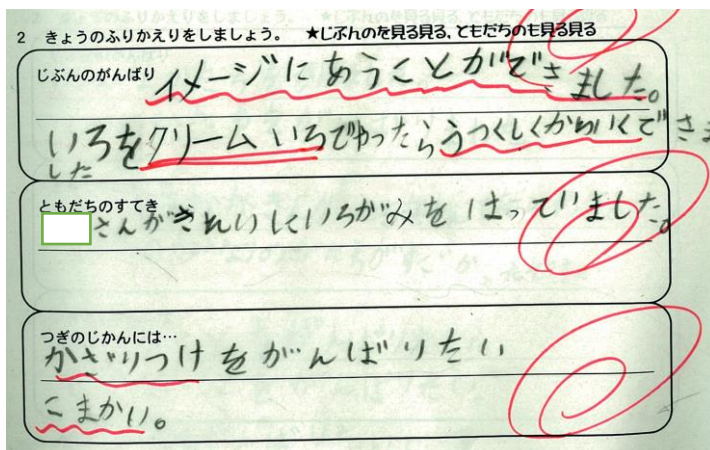
製作をして交流，振り返りを行う。



目の周りの飾りがかっこいいね。



〈振り返り〉見る見るカード（この時間もワークシートと一緒にしている）



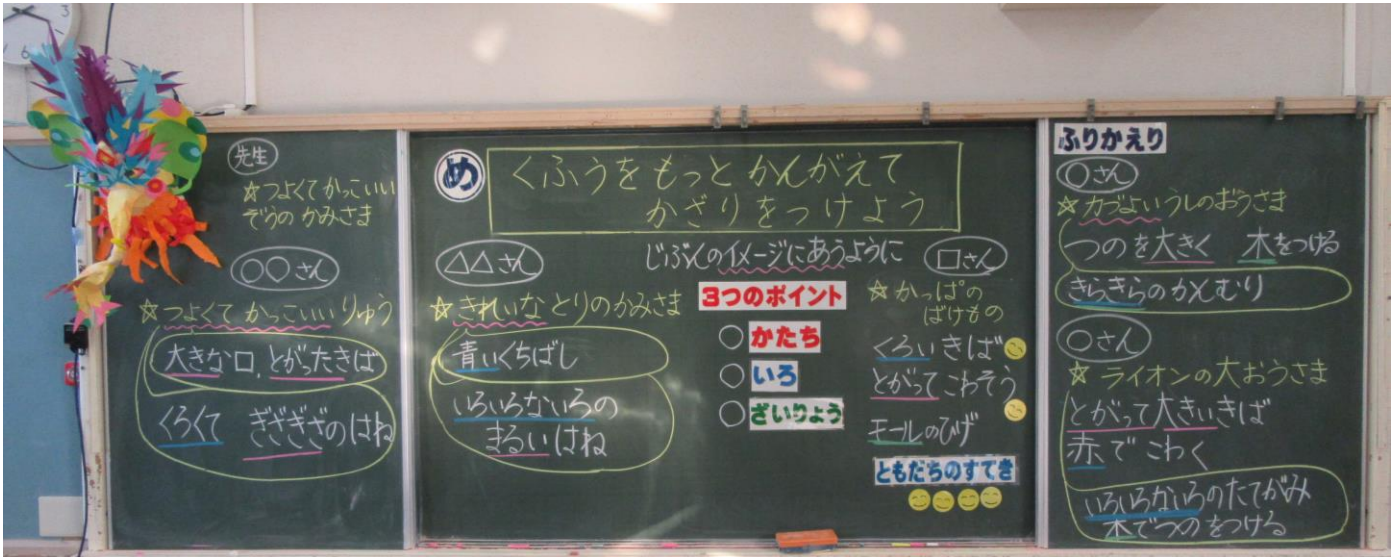
次の時間にしたいことを発表させ、課題設定につなぐ。

3 時間目 (本時)

工夫をもっと考えて飾りをつけよう

★ 今までに学んだ視点を基に、新しい工夫を考えたり、交流で見つけた友達の工夫をまねたりしながら、自分が変身したいもののイメージに合うように、飾りを考えて面をつくっていく。

〈板書計画〉



【あなたが選ぶのはどっち】

題材の学習が進むにつれ、獲得してきた視点をまとめて掲示していく。前時までで完成。本時の初めに、工夫の視点の確認のために使用する。



子どもたちは、自分のイメージに合うように、視点を基に工夫を考え、表していく。

★【ヒントコーナー】**自信度**

大きな飾りのつくり方や、それを面にどうやってつけるか、紙の加工のしかた等を掲示しておくことで、必要に応じて見に行ったり、そこで練習したりできるようにしておく。教師に頼らなくても、自分で解決できるようにしておく。

★【教室の環境】

- ・材料コーナーを教室後方にまとめて置き、材料を取りに移動する際、自然と友達の製作が見えるようにしておく。
- ・姿鏡を準備しておくことで、面をつけた自分の姿を確認しながら、製作を進められるようにする。
- ・参考になる作例、資料写真等は、継続して掲示しておき、いつでも見られるようにしておく。

※ 製作中、支援員がついている子どもにも、必ず声をかけるようにする。

困っている子どもに、支援員と一緒に「ヒントコーナー」や「あなたが選ぶのはどっち」の掲示に行くように促し、さりげなく、支援員との連携を行う。

製作の時間が終了した後は、交流、振り返りを行う。

前時の写真と比べることで、自分の頑張りや伸びが分かりやすい。

次にしたいことを表出し、次の課題へとつなぐ。

4 時間目

イメージに合うか確かめながらお面を完成させよう

面をつけて鏡で見たり、友達と見せ合ったりしながら、イメージに合うか確かめながら完成させていく。板書は3時間目（本時）と同様。

《第3次》（1時間）

みんなで変身して、よいところを見つけ合おう

★ なりたいものに合う場所を校内で探し、その場所でポーズをとって変身し、鑑賞し合う。

この時間は図工室以外の場所へ移動しながら鑑賞し合う活動のため、活動後に見る見るカードを書き、交流する。

また、昼休みに、面をつけて仮装行列を行い、全校生に見てもらおう機会をつくる。

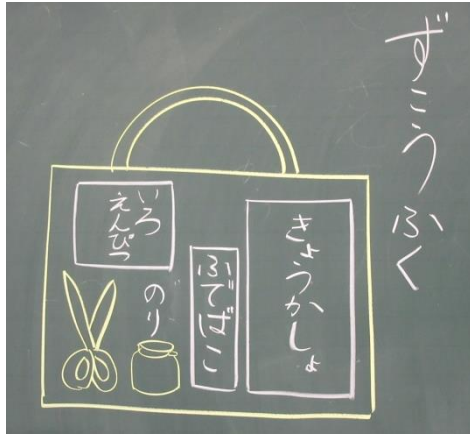
3 特別支援教育の視点, 支援員の動きについて

(1) 図工の授業において

視覚的支援

★ 図工の授業全般において

① 図工室へ移動する前の準備



図工の時間に、図工室へ移動する際に、たくさんの持ち物を持って行くようになる。すぐには取りに戻れないことから、前の黒板に服装と持ち物を書き、自分で見て確認できるようにする。この時、移動用の袋の中に入れるものを、簡単に絵で表し、分かりやすくする。

1年生の1学期は、絵で描くのではなく、図工の教科書等、実物をクリップ磁石で挟んで示していた。

② 道具をしまうために

図工の時間には、のりやはさみ等のこまごました道具は、たくさん使う。子どもたちは、製作に夢中になると、「でんぷんのりのふたがなくなった」等、道具をよく机の下に落としてしまうことがある。そこで、小さなプラスチックケースを準備し、しまうものの写真を中にはり、「使ったらこの入れ物に片付ける」という意識をもたせる。図工室におけるお道具箱のような使い方をする。



③ 活動の時間を知らせるために



図工の時間には、製作の時間、交流の時間等、活動する時間がある。あとどのくらいの時間活動できるのか、終わりが分かるようにするため、キッチンタイマーをテレビに写している。1学期はタイムタイマーを使っていたが、時計の概念が十分に身につけていない1年生にとっては、数字が次々と減っていく方



【タイムタイマー】

が、「残りの時間が少ないな」「あと〇〇だけはしておこう」等、意識しやすいようだった。このキッチンタイマーは、5分、1分等区切りのよい時に短いアラーム音が鳴るため、その音でも子どもたちは残りの活動時間を意識できるようになる。終了の時間が来たら長くアラームが鳴り

聴覚的にも終わりの合図があるので、気持ちをなかなか切り替えにくい子どもも、切り替えやすくなる。

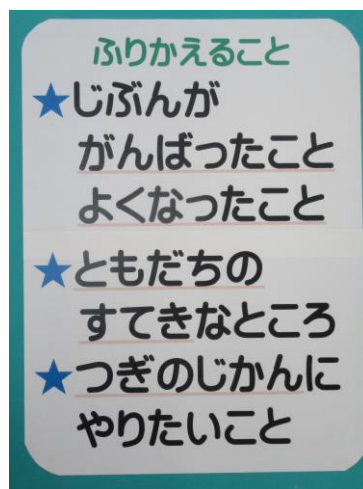
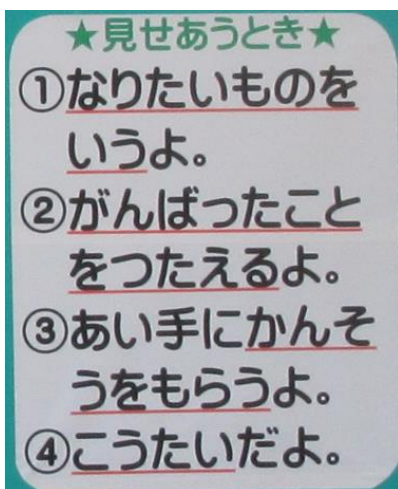
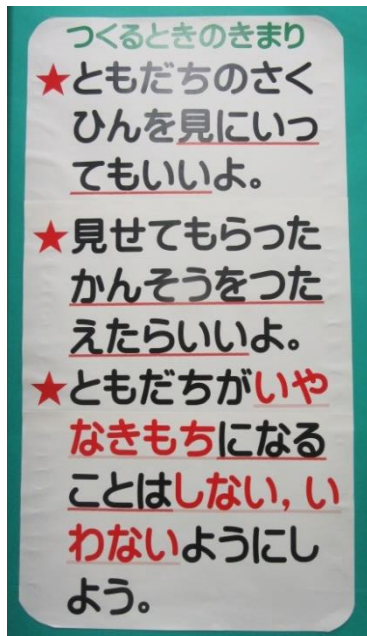
キッチンタイマーのアラームに加えて、ハンドベルも用意しておく。タイマーのアラームが聞き取りにくい場合はベルを鳴らし、終了の合図をよりはっきりさせる。



★ 本題材において

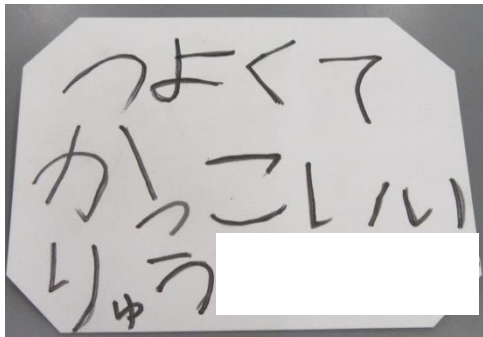
① 活動にあたっての留意点, 手順の掲示

子どもたちは, 学習に関する学級でのきまりをつくっても, 次の時間には記憶が薄れていることがある。そこで, 活動の留意点や手順など, すぐ確認できるように掲示しておく。または, 必要なときだけ提示し, 終わったら外せるようにして, 黒板が留意点や手順表で埋まらないようにする。



スチレンボードに貼って, 必要なときに黒板にさっと貼れるようにする。

② 交流の際には

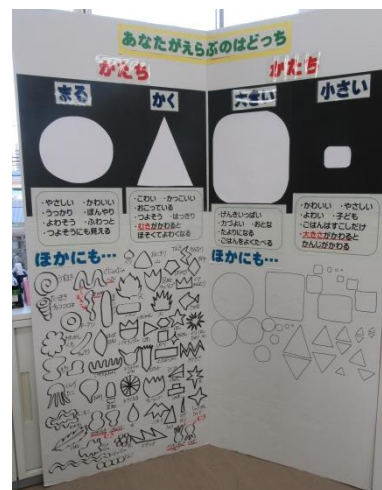


子どもたちが自由に想像してつくっている作品は, 本人は何をつくっているかよく分かっているが, 他の友達に見せた時, 短い時間で見ただけでは, 相手に何をつくっているのなかなか伝わらないことがある。また, 1年生の子どもは, 自分の想像したことをうまく説明できないという実態もある。そこで, 自分のイメージを書いた紙を名札のように服にはり, 相手のイメージが分かりやすいようにする。

③ 形や色を選択できるように

「自由に想像しよう」といっても, 「何を想像したらよいか分からない」や, 「新しい工夫を考えよう」といっても, 「どうしたらいいかわからない」という困り感をもつ子どももいる。そこで, 想像が苦手な子どもには, 参考になる作例, 写真等をたくさん用意し, その中から表したいイメージに近いものを選んだり, 組み合わせたりしながら, イメージを膨らませられるようにする。また, 工夫を考えられない子どものために, 今まで学んできたこと(あなたが選ぶのはどっち)を掲示しておき, その中から工夫を選んだり, 組み合わせたりすることで, 自分の工夫ができるようにする。

選択することを繰り返しながら, 徐々に発想できるようになる。そのために, 見て分かりやすい掲示にすることが大事。



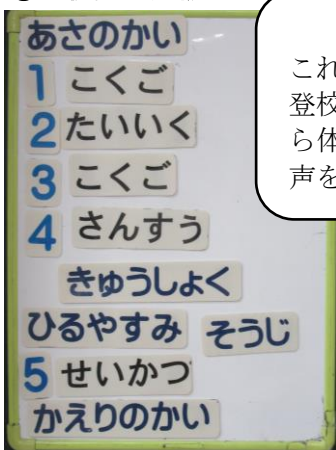
図画工作科の特性から

★ 図画工作という教科は、それぞれ、自分の思いに合わせて表現していくもの。子どもの表現で「これが正解」というものはない。教師は、常に肯定的に、受容的に、具体的にそれぞれの子どもの表現を認める声をかける。また、子どもたちどうしにも広がるように、まずは教師が手本を示し、子どもたちの中で受容的な交流のできる子どもを称賛し、それをモデルとできるようにしていく。教師や友達から認められることで、自己肯定感も育ってくると考える。互いに学び合える受容的な雰囲気をつくることのできる教科である。

★ どの子どもにも「表したい」「やりたい」という思いをもたせることで、表現に困った時、何とかしようと教師や支援員を頼ったり、友達に聞いたりできると考える。子どもの実態、興味・関心のあるもの、日常の活動とつないで、題材を選択したり、題材の構成を工夫したりする等、子どもの意欲をより喚起できるようにする。そのためには、教師自身が題材を楽しむことが大事である。

(2) 日常の取り組み

① 視覚的支援



1日の流れの掲示

これを見て、体育係が朝、登校して片付けが済んだら体操服に着替えようと声をかけている。

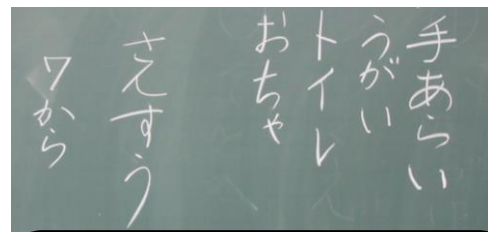
こころがけていること

- 「指示や説明のことばは短く、簡潔に」
- 「手順に沿って」
- できていることをほめる。



給食の後の黒板

- ①は歯磨きのブラシ、コップの片付けのこと。
- ②は掃除のために、机を教室の後ろへ運ぶこと。
- ③は外で元気よく遊ぶことを伝えている。



15分休みの後の黒板

外から帰ってきてすることを短く書いておく。
時計がよめないので、長い針が「7」から算数が始まると知らせる。

★ 子どもへの関わり方

- ・子どもにもプライドがある。それを大切にしたい支援方法を考える。
- ・1年生の子どもは、集中力が長く続かないもの。1つの活動を15分程度で行うとよい。
- ・「聞かなくても分かる」ので、集中して聞けない子どももいる。1か月に1回程度は、必ず聞けたか確認（話す前に「最後まで聞いてね。」後から「聞いたよね。」）し、聞けている事をほめる。また、「今から言うことは、最後まで聞かないと分からない。」と言ってから話し、後でチェックすることで、集中して聞くことができるようにしていく。
- ・いつ集中したらいいかあまり分からない子どももいるので、いつ集中すべきか（「今から大事なことを言うよ。よく聞いてね。」）を教える。また、後で確認できるように内容を掲示する等して、自己修正できるようにしておく。
- ・1年生は自分のことをメタ認知しにくい。友達との関わりに課題がある子どもには、それができるようになるまでの間、継続して指導をしていく。例えば、「順番を守ってくれてよかった」「友達に

優しくできたね」等、少しでもできたことをほめる。周りの子どもたちも育て（ソーシャルスキルトレーニング等も活用できる）、受容的な学級の雰囲気の中、徐々に分かるようになる。ただし暴力や、人権侵害的な発言などは許さない。しかし、暴力の回数が減ったこと等、伸びをほめることで、更に回数を減らせるようにする。

- ・行動と思考が繋がらない子どもには、やり方を教える。例えば、テストで見直しをしなければいけないとは思っているが、実際は見直せない子どもに、見直しのやり方を教える。
- ・具体的なイメージがわきにくい子どもには、目安を示す。例えば、「大きくつくろう」の「大きく」とはどのぐらいの大きさなのか、目安を示すことで分かるようになる。
- ・作業をする場所、自分の作品を友達と話し合う場所、材料等を置いている場所を分かりやすく示して、場の構造化を図る。また、学習の流れも視覚的に示し、今、どこで、何を誰とするのかを分かりやすくする。

(3) 支援員との連携について

- ・担任は時に厳しく指導することもある。支援員も場合によっては、そうすることもあるだろうけれど、基本的には、褒めてくれる・認めてくれるのが支援員であると考える。
- ・基本は褒めてくれるのが支援員であるが、「どのような子どもを育てたいのか」という担任の思いを伝えることで、支援員が関わり過ぎて自分では何もできないという子どもにならないように気を付ける。子どもたちが支援員に甘えすぎないように、手伝うところとそうでないところを考えながら関わってもらう。例えば、鞆の中身の片付け、体操服への着替え、エプロンをたたんでしまう等、時間に余裕があるものは、手伝わずに促す。しかし、子どもだけではなかなかできないところ、例えば、掃除のバケツの水をひっくり返す、体操服を取り違えて分からなくなる等が考えられる。その他にも、本当に困っている様子が見られたら、手伝うというように、「基本は手を出しすぎないで見守る」をお願いしておく。
- ・その子が何に困っているのか、手助けのタイミングはいつかを担任は見取り、どのようなときに手助けしてもらうかを支援員に伝えることで、支援員も関わり方に迷ったり困ったりということが減り、有効な支援をしていける。
- ・子どもの発言をもとに、情報の共有を行う。身近にいてくれる支援員には、不安に思っている事や、友達との関わりで失敗したこと、つらかった出来事等を言いやすい子どももいる。担任が知らないという情報がないように、つらい思いをしたことや、困ったことを訴えてきた場合は、担任と情報を共有する。担任も、配慮の必要な子どもについての情報は支援員に伝え、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。打ち合わせの時間はなかなか取れないことが多いが、困ったことにはすぐ対応できるように、重要なことはすぐに伝え合うようにする。日常的なことは、休み時間や放課後等のちょっとした時間に共有していく。
- ・支援員は、授業中は担任から遠い座席の子どもの様子を中心に支援するようにお願いする。（後ろ側や外側等）あまり子どもの前を頻りに横切らないことで、子どもの集中を途切れさせないようにする。担任は、特に気になる支援してほしい子どもの座席配置を考えるとよい。
- ・支援員には、あまり一人の子どもにばかりつかず、全体的に関わってもらう方が、周りの子どもたちが「あの子いつも先生に助けてもらって…」等の意識をもたないのでよい。

ただ、本時の図工では、製作の進度がゆっくりの子どもや技能的な課題が大きい子どもについては、中心的に関わってもらおうように考えている。

- ・ 注意力が散漫で話を聞き漏らす子どもや、一度聞いただけでは理解しにくい子ども、聞いたけれどもすぐに忘れてしまう子どものために、担任が話したことを短くまとめ、支援員がホワイトボードやスケッチブック等へ書き、担任の話が終わった後で黒板等に示すことで、後で子どもが確認できるようにする。
- ・ 担任と支援員とが、よい人間関係を築いていること、何でも話せるような雰囲気、子どもにもよい支援をもたらすと考える。いろいろな個性をもつ1年生35名を、担任一人で見ることが大変で、支援員が子どもたちと共に担任も支えてくれているという感謝の気持ちをもつこと、子どもたちを伸ばそうという思いを共にもつことが大切である。

〈参考文献〉

成長する授業 子どもと教師をつなぐ図画工作 岡田京子 2016年 東洋館出版社

絵心がない先生のための図工指導の教科書 細見 均 2017年 明治図書出版

新しい自分と出会う造形活動 筑波大学附属小学校図画工作科教育研究部 2011年 不昧堂出版